様式第３号

会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名</td><td colspan="3">令和３年度　第３回　川西市社会教育委員の会（レフネック部会）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td colspan="3">教育推進部　社会教育課　（内線　3421）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 日 時</td><td colspan="3">令和３年８月20日（金）10時00分～11時30分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 場 所</td><td colspan="3">川西市役所　4階　庁議室（zoomによるweb会議）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　　員</td><td colspan="3">常行副議長、上田委員、倉橋委員、樋口委員</td></tr>
<tr><td>そ の 他</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="3">村山社会教育課長、木田副主幹、網永事務員、会計年度任用職員海野、谷井</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td>可</td><td>傍 聴 者 数</td><td>０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 次 第</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 結 果</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

審 議 経 過

1．開　会

2．報告事項

(1) 今年度のレフネックの予定について

事務局より資料１に基づき報告がなされた。

会場であるアステ市民プラザをワクチン接種会場として使用することが決定

（期間は、７月１２日から１０月３１日（予定））

レフネックは８月末からの開講を急遽変更し、次のとおり対応する。

１．専門学科：今年度予定分、中止（受講生には連絡ずみ）

「こころの未来学科」２年次、「エネルギー変換工学科」２年次、

「宇宙・生命学科」１年次、「日本史学科」１年次

２．オープン講座　３講座・各４回：

大阪青山大学講義室を借用して実施予定。受講者は５０名以下とする

３．その他

各大学等へ、「今年度は中止」を伝えたうえで、「令和４年度以降の実施について」問い合わせ

→「日本史学科」は実施不可能、他の３学科は「検討」「調整」との回答

今後は、新型コロナウイルス感染症の収束を見たうえで各大学等と折衝する。

これらの報告について委員から種々意見を聴取し、協議した結果、

・新型コロナウイルス感染症が収束したタイミングで、すぐレフネックが開催できるように、具体的な方向性、計画、時期はしっかり練っておくべき。

・今年度のレフネック専門学科は中止になるが、来年度に復活できるように準備すること。

・原案をきっちりと早めにまとめたうえで３か月、６か月のスパンで新型コロナウイルス感染症の状況により原案を見直す。

・レフネック設立当初は専用の館があり、施設の制約がなかった。今はレフネックの活動が縛られている。新型コロナウイルス感染症収束後の計画について、大学側はすぐ回答できないと思うが、計画は必要である。

・会議の事だけではなく、社会教育委員に伝えられる情報は随時伝えるべき。審議するうえで念頭に置くことができる。

・本年度オープン講座を３講座実施予定だが、緊急事態宣言中の開講なので講師がオンライン参加になるとしても何かできれば市民から「レフネック頑張っている」という意識を得られる。

・社会教育委員もレフネックの講座を受講してもらうと、レフネックの様子がよくわかる。

などの意見が述べられ、今後の計画、依頼先との折衝を事務局に一任した。

3．議題

（1）今後のレフネックのあり方について

資料２について事務局より説明がなされた。

・レフネックを現在の形で継続するなら、受講者の高齢化・固定化といった構成状況は変わらない。また、現役世代が望む内容（技能やキャリアアップ・資格を目的とした講座、受講期間の長さ、自宅でのオンライン受講など）になっていない。また、家庭や仕事の状況変化も見込まれる中、受講期間が２年は長い。

・これまでのレフネックには、大学としての視点があった。レフネックで採用しないものを高齢者大学や公民館講座とする。設立理念の違いを理解し、それぞれの長所を活かし、生涯学習全体の中で再構築する。

・学びのアウトプットを求めるのであれば、地域とのつながりや身近な課題に特化した内容の講座が効果的である。大学レベルの講義であっても、個人学習に留める人が多数であればアウトプットは難しい。

・今後の取り組みとして、例えば「市民人材育成に主眼を置いたコース」や「青少年や親子を対象のコース」が考えられる。

事務局の説明の中で、平成６年の教育長の答弁が紹介された。

・生涯学習短期大学は、単なる趣味や教養の講座ではなく、市民のより高度な学習要求に応えるために、リカレント教育の生涯学習の拠点として開設された。

・川西市らしいローカルな一面も取り上げたい。

これらについて委員から種々意見を聴取し、協議した結果、

・川西市民の生活実態を分析し、対象コース、開催日時などを検討するべきではないか。

・受講期間２年は長い、３か月、６か月などに期間を変えてみたらどうか。

・親子対象の講座は、川西市に９か所ある近所の公民館の方が行きやすいし、各地域、少人数で実施できる。親子が１０組集まれば運営が大変。

・地域社会での役割を探してもらう。楽しく過ごす、生きる、生きがい、福祉との関連などのメニューをどれだけ提示できるか。

・ニーズがどこにあるのかを把握しているのは行政である。レフネック設立当初と今はどう変わっているのかを把握して、方針を示すべき。

・レフネックをフルチェンジ、マイナーチェンジするのか、公民館、高齢者大学と全体を考えて再構築するのかを考えないといけない。

・ハイグレード、アカデミックな講座を１年間、のこりを社会的課題、青少年に向ける。

・社会教育事業として、受講生が特定の人に偏ってしまっているのはもったいない。どのような人材を育成したいのか、目的を明確にするべきではないか。

・例１の「市民人材育成の主眼を置いたコース」はいいと思う。力を入れたい社会教育に特化し、川西市における地域性の高い課題に対して、活躍できる人材を育成することはすばらしく、視点がわかりやすい。目標設定してぜひ進めるべきである。

・川西市にはすばらしい自然があり、川西市の自然を守る市民団体の活動は他市に比べて質が高い。川西市の市民団体が、小学校の自然体験学習のサポートをする事が現場で始められてい

る。これは学校教育ではできない部分を市民が支え、社会教育でカバーしていることになる。自然環境の分野に限らず、レフネックが学校教育と生涯学習をつなぐ市民団体を育成する講座の役割を担っていくと、川西市の教育全体の質の向上につながっていく。

・「北摂里山大学」を参考にしてもらいたい。

・「市民人材育成の主眼を置いたコース」、「青少年や親子を対象としたコース」だけを実施すると、今までレフネックに通っていた６０歳以上の方々の行き場がなくなってしまう。高齢者の行き場も考える必要がある。

・レフネックは平成６年の市長が、川西市に大学がないため、短期大学並みの教育システムを作りたいということで設立された。そのため期間が２年となった。当時から受講生は高齢者が多く、レフネック修了生が大学の社会人入学枠へ進学できる制度があった。レフネックと高齢者大学との役割分担が必要である。レフネックの定員は３０人から出発したが、申込者が多く、７０人、１００人に増やし大きな会場に移った。

・レフネックの受講生に女性が少ないことへの対応も考えるべき。

などの意見が述べられた。

各委員は本日の会議で意見を出し切った。会議の結果を受けて具体的に開催日時、テーマ、対象などの設定が見える意見があれば８月末までに事務局に届けることとした。出された意見は事務局から各委員へ情報共有する。また、課題が多い中、社会教育委員の会（レフネック部会）の回数が少ない。要望があれば次回（１１月１９日）までの間に追加開催することを検討することとした。

4．その他

事務局から、次回、第４回社会教育委員の会（レフネック部会）は、令和３年１１月１９日（金）１０：００開催するとの連絡がありこれを了承した。

5．閉会